

よなかふしぎわ
世の中には不思議で分かりづら
いことがたくさんあります。自然、
かがくれきしとせんせい
科学、歴史など、詳しい先生に解き
あ
明かしてもらいましょう。

し
知りたい好奇心



©原ゆたか / ポプラ社

川の水確保へ工夫 分水庫で平等に集落へ

山梨県は水が豊かという印象があるかもしれませんが、実際に川を流れる水の人々が使うためには、昔からさまざまな工夫がされてきました。ここでは甲州市の勝沼地区にある分水庫を紹介し

扇状地の特徴

この地域は扇状地が始まるあたりに位置しています。扇状地は、そこを流れる川が上流から土砂を運んで作られています。川は扇状地の中心を流れるのですが、山から流れ出た所では川底は深く谷になつているために、水が見えてもその水を簡単に使うことはできませんでした。そのため、水には実は大変苦勞していたのです。

昔の人の努力

この分水庫は鬮甲川の上流から取り入れた大事な水を3方向に等分に分けるために置かれています。この円形の装置は3重になつていて、上流から引かれた水は中心にある円形の下の方から沸きあがってくるようになっていきます。その水はその外側の円柱部分にあふれますが、それはその円柱の外側にあけられている、大きさが同じ穴から、三つに分けられた外側の円柱部分に流れ出ていきます。

こつすること川の水は平等に三つに分けられ、ここから3方向に流れるよう作られた用水路を通して、それぞれ別の集落に流れ込みます。その水は集落内の各家庭の庭先の堀を通ったり、農業用水として使われたりしながら、最後は下流の河川に戻され

昔の人々が大変な努力をして作った用水路ですが、今では道路の側溝になり、その上にはふたがかけられて、そこに用水路があったことすら分からなくなりました。

しかし、こうして分水庫が残ったことで、私たちは昔の人々にとって水がどんなに大事だったかを考えることができ、またそれを平等に分ける苦勞をしていたことに思いをはせることができます。

山梨県内では水を分ける仕掛けとして、北杜市にある三分の一湧水が有名ですが、この勝沼の仕掛けも非常によくできています。皆さんの身近な所にも昔の人たちの苦勞の跡が残っているはずですよ。それを訪ねてみるのも面白そうですね。(山梨大学大学院総合研究部生命環境学域教授・大学院国際流域環境研究センター教授 風間ふたば)



分水庫の内部の様子。このように巧みな仕掛けで水を均等に分けています



円筒分水庫

甲州市勝沼地区にある分水庫の案内板